

県外派遣報告書	
1 大会名	令和4年度国民体育大会第42回九州ブロック大会
2 派遣期間	令和4年 8月26日(金)～28日(日)
3 派遣者	水間光亮 丸山真輝
4 担当ゲーム	<p>〈水間氏〉</p> <p>【担当ゲーム1】27日 少年男子 大分 vs 宮崎(CC:川井 U1:秀島 U2:水間)</p> <p>【担当ゲーム2】27日 少年男子 福岡 vs 大分(CC:福岡 U1:水間 U2:藪崎)</p> <p>【担当ゲーム3】28日 少年男子 沖縄 vs 福岡(CC:前田 U1: 峰 U2:水間)</p> <p>〈丸山氏〉</p> <p>【担当ゲーム1】27日 成年女子 長崎vs福岡 (CC:井元 U1:千原 U2:丸山)</p> <p>【担当ゲーム2】27日 成年女子 熊本vs長崎 (CC:小川 U1:千原 U2:丸山)</p>
5 内容	<p>〈水間氏 報告〉</p> <p>(PGC)</p> <p>1パンフレット等を用いてのスカウティング</p> <p>2ガイドライン等の確認</p> <p>3映像等を用いてゲーム中起こりそうな現象の確認</p> <p>【MTG(クルーMTG)】</p> <p>ゲームの実際は、お互いにバチバチにやり合うようなゲーム展開でした。前半から、インサイドやガード陣の手の使い方に対ししっかりと声かけをし、必要なものに対し笛を入れ、クリーンなバスケットを促していった。後半になり、ゲームの展開が少し変わり、UFではなかったか?というケースが2度あり、しっかりと判定をする必要があった。また選手のインテンシティの変化にもっと敏感にならないといけなかったし、ボールデットの際こそしっかりと選手の管理をしないといけないと感じました。</p> <p>この2点の確認が疎かになったため、両選手にTFをつけるのがベストのシチュエーションで片方だけにTFをつけてしまった。そのTF後の再開もクルー同士の確認ミスで得点に関するミスも起き、ゲームが止まってしまうことが起きてしまった。ゲーム後のミーティングでも、確認不足が目立ったという反省が出た。改めて、確認する大切さのわかったゲームでした。</p> <p>【担当ゲーム2】</p> <p>(PGC)</p> <p>1映像等を用いてゲーム中起こりそうな現象の確認</p> <p>【MTG(クルーMTG)】</p> <p>力の差のあるゲームだったので、大きな現象等はなかったため、このゲームでは1試合目で確認不足という課題が出たので、TOの管理・タイマー管理・ベンチの管理を意識しました。ゲーム後のミーティングでは、福岡氏よりローテーションの際、もっとバックペダルをつかっても良かったというアドバイスを頂きました。確かに、ローテーションを行いミッドレインを渡るぐらいのタイミングでド</p>

ライブやショット・パスが戻ってきたりと、結果的にローテーションしなければ良かったケースが多々ありました。

【担当ゲーム3】

(PGC):1パンフレット等を用いてのスカウティング

2ガイドライン等の確認

3映像等を用いてゲーム中起こりそうな現象の確認

【MTG(クルーMTG)】 ゲームの前半が終わった際、クルーでプライマリーがしっかりと判定をしようということと、沖縄のOFの時にボールサイドツォを作るようにローテーションをしようということを通確認をした。後半にかけては、ローテーションのタイミングもいいタイミングで行うことができたので、しっかりとプレーを判定することができた。その中で、EOQのところで、会場の設営の関係上タイマーを持っているレフリーが時計が見づらい状況で判定をしないとイケない場面があり、タイマーを確認しやすいレフリーがアシスト(情報を持っておく)できるようにしておかないとイケなかった。また、自分自身の反省として、プレーにフォーカスしすぎて、マージナルなものを笛にしてしまったケースで、もっと視野を広く持ち、客観的にプレーを見るようにしなければイケなかった。

〈丸山氏 報告〉

【担当ゲーム1】

(PGC)

- ・基本的なメカ及び、プライマリーの確認
- ・重点項目の確認
- ・スカウティング

(ゲームの実際)

- ・両チームとも学生主体のチームであり早いトランジションが目立つ試合展開。
- ・福岡は大学生、長崎は高校生が主体で合ったためフィジカル差があった。
- ・福岡から留学生が出場してきた際のインサイド周辺のテンポセット。
- ・最後は福岡が走り、勝ち切った。

(試合後のPGC)

- ・オービナスなものには笛が入っており大きな事故等なく終えれた。
- ・各クルーの判定の際のポジションアジャストの検証。
- ・複数人で判定した際のプライマリーテイク等の確認。

【担当ゲーム2】

(PGC)

- ・【担当ゲーム1】の映像を用いてU1、U2それぞれの課題の確認。
- ・重点項目の確認
- ・スカウティング

	<p>(ゲームの実際)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本は実業団が主体のチーム、長崎は高校生が主体のチーム。 ・序盤から終盤まで終始、熊本がリードし勝ち切った。 ・両チームともタフなディフェンスであり見極めが求められた。 ・自身としては決断力を問われるケースが2度あった。 <p>(試合後のPGC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカ及びプレーコーリングの確認。 ・笛にする必要はなかったが両チームのベンチコントロールをクルーとしてマネジメントできていたのかの検証。 ・自身の決断力が必要となった時にベストなポジション、アングル、集中力で現象を捉えられていたのかベーシックに立ち返り振り返りたい。
6 所感	<p>〈水間氏 報告〉</p> <p>コロナ禍の中、コロナ対策含めた準備等含め、ブロック国体開催にあたってご尽力いただきました熊本県の方々に感謝いたします。今回初めて、ブロック国体に参加させていただき、今までの九州大会等とはまた違った雰囲気の大大会だと感じました。その中で、2日間割当をいただき嬉しく感じると共にまだ足りない部分を学ぶことが出来ました。今回の経験を、来年行われます鹿児島国体に活かせるよう、今後の県内活動に活かしていきたいと思えます。今回の派遣にあたりご配慮いただいた鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。</p> <p>〈丸山氏 報告〉</p> <p>まず初めにコロナ禍の中にもかかわらず大会運営にご尽力いただきました熊本県の皆様、そして今回の派遣に際しましてお世話になりました原田審判長に深く感謝申し上げます。自身としては初めてのブロック国体への派遣となり九州中の上級審判員の皆様と同じコート控室を過ごさせていただき今までにない緊張感の中で大会を過ごすことができました。実際の試合の中でもベーシックな部分から決断力やゲームコントロールといった難しい内容などの自身の課題が多々見付きさらなるレベルアップへと繋げていきたいと感じました。また、今回の経験を自身の中だけではなく県内での活動へ繋げていきより良いものへとしていきたいと感じました。拙い内容ではありますが以上を持ちまして派遣報告といたします。ありがとうございました。</p>